金管 KINKAN

Symnapse | 第4回演奏会

Symnapse室内楽演奏会シリーズ第3弾のテーマは「金管楽器」。しかし我々が目指すのは、ただの演奏会ではない。
「複合的な」「錯綜した」といった意味を持つ〈コンプレックス〉を演奏会名に冠し、金管アンサンブルという編成に、多様なかたちで「複合性」を織り込んでいく。
また、当シリーズの新たな試みとして、ゲスト作曲家・山根明季子氏の作品を再演する。組曲「ネオン+」は電飾がテーマであり、過度なまでの鮮やかさを体感できることだろう。
今回のために集った若手プロ奏者によるハイレベルなパフォーマンスにも注目だ。

November 1st,2025

2025年11月1日(土)

滝野川会館小ホール
東京都北区西ヶ原1-23-3

COMPLEX コンプレックス

PLAYER

今田俊輔 | IMADA Shunsuke (Trumpet)
妹尾美雨 | SENOO Miu (Trumpet)
嵩元希隆 | TAKEMOTO Kiryu (Horn)
二階堂充教 | NIKAIDO Minori (Horn)
岡田光司 | OKADA Koji (Trombone)
長澤照平 | NAGASAWA Shohei (Tuba)
佐藤匡介 | SATO Kyosuke (Sound Engineer)
湯地晃太郎 | YUJI Kotaro (Human Beatbox)

Symnapse

姫野七弦 | HIMENO Natsuru
湯地晃太郎 | YUJI Kotaro
中村陽太 | NAKAMURA Yota
飯田匡 | IIDA Tasuku

GUEST COMPOSER

山根明季子 | YAMANE Akiko

Brass Instruments

ご挨拶

本日は Symnapse 第 4 回演奏会～キンカン・コンプレックス～にご来場いただきありがとうございます。

Symnapse は若手音楽家によるグループです。2022 年に活動を開始して以来、吹奏楽経験と現代音楽への興味という共通項を持ったメンバーにより、その両者を結びつけ新たな音楽の可能性の追求とその普及を目指した活動を実施しております。

本演奏会は、当団体が実施し続けている「特定の楽器にフォーカスした室内楽公演」の第 3 弾です。第 1 回のヴィブラフォン、第 2 回のクラリネットに引き続き、今回は金管楽器にフォーカスします。「複合的な」「錯綜した」といった意味を持つ〈コンプレックス〉を演奏会名に冠し、金管アンサンブルという編成に多様なかたちで「複合性」を織り込んでいきます。

その〈コンプレックス〉は大きく 2 つ、「エレクトロニクスとの協働」と「既存の作品の再演」です。

1 つめの「エレクトロニクスとの協働」としては、マイクを通した単純な増幅、音源の同期再生、コンピュータを通した変調を含むライブエレクトロニクスに取り組みます。いずれも現代音楽の分野ではすでに数多くの実践例がありますが、これらの手法をぜひ吹奏楽界にもご紹介できればと思っております（なお、寺井尚行《時間(トキ)が空間(そら)を舞う》をはじめとして、少ないながらもすでに吹奏楽にもエレクトロニクスを含んだ作品は存在します）。

2 つめの「既存の作品の再演」ですが、現代音楽界には、魅力的ながらあまり知られていない作品がたくさんあります。当団体ではこれまで新作・新編曲の初演のみを実施してきましたが、知られざる作品を再演し紹介することで、より多くの方に知っていただく機会としたいと考え続けてきました。

そこで今回は、現代音楽界ですでに広く知られている作曲家である山根明季子氏の金管五重奏作品を取り上げます。金管楽器の魅力を現代の視点で引き出した作品で、今後ぜひ皆様にも取り上げていただけたらと思います。

今後の演奏会でもさまざまな作曲家の作品の再演に取り組み続ける予定ですので、ぜひ楽しみにしていただけますと幸いです。

最後になりますが、本公演を行うにあたりスタートアップ助成に採択してくださった公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京様、演奏者の皆様、デザイナーの中村陽道様、録音をご担当くださる K.M.Works 様、録画をご担当くださる株式会社 CAFUA レコード様、その他お世話になった全ての皆様に感謝申し上げます。

Symnapse

プログラム

夜のファンファーレ ～ 2 本のトランペットのための

Nocturnal Fanfare for 2 trumpets

作曲：姫野 七弦

Trumpet：今田、妹尾

まねごと、ざれごと、おままごと ～ ホルンとヒューマンビートボックスのための

Imitator, Humor, and More... for horn and human beatbox

作曲：湯地 晃太郎

Horn：二階堂　Human Beatbox：湯地　Sound Engineer：佐藤

想像以上の色とリズム ～ 不特定多数の金管楽器奏者のための

More Colors and More Rhythms than Expected for many brass instruments

作曲：湯地 晃太郎

Trumpet：今田、妹尾　Horn：嵩元　Trombone：岡田　Tuba：長澤

休憩 (20分)

Intermission (20 min.)

音響的オートマトン / オートマトン的共同体

Acoustic Automaton / Automatonic Assembly

作曲：中村 陽太

Horn：二階堂、嵩元　Trombone：岡田　Sound Engineer：佐藤

踊る巨人 ～ テューバとテープのための

Dancing Giants for tuba and tape

作曲：姫野 七弦

Tuba：長澤　Sound Engineer：佐藤

組曲「ネオン+」

Neon+ Suite for brass quintet

1. ビデオゲームアーケード　2. ネオン　3. カーニバルライド

1. Videogame Arcade　2. Neon　3. Carnival Ride

作曲：山根 明季子［ゲスト作曲家］

Trumpet：今田、妹尾　Horn：二階堂　Trombone：岡田　Tuba：長澤

プログラム・ノート

夜のファンファーレ
～２本のトランペットのための
作曲：姫野 七弦

楽譜販売ページはこちら

本作品の一番の特徴は、2 人の奏者がさまざまな方向を向いたり、場所を移動しながら演奏することにあります。これは、トランペットの特徴の一つである「指向性の強さ」を活かし、ただの飛び道具としてではなく、視覚的要素と音楽的要素をより明確に結びつける試みとして採用したものです。

また、本作品におけるキーワードとしては「影」も挙げられます。どういうことなのか、ぜひ意識していただけたらと思います。

【おすすめコンテンツ】

» **Henri Dutilleux：The Shadows of Time**

勇気をもらっています。

» **金子 仁美：共鳴の瞬間（とき）　トランペットとトロンボーンのための**

この作品も 2 人の奏者が動き回ります。楽譜上の指示がかわいいです。

【おすすめコンテンツ by 飯田 匡】

» **武満 徹：Signals from Heaven**

武満による昼夜セットのファンファーレ。もちろん派手ではない内省的な作品。

» **Unsuk Chin：Fanfare Chimérique**

管楽合奏によるファンファーレの傑作。電子音付きなので《踊る巨人》で紹介してもよかったかも。

まねごと、ざれごと、おままごと
～ホルンとヒューマンビートボックスのための
作曲：湯地 晃太郎

楽譜販売ページはこちら

「模倣する」という行為、それはヒトにおける高度な社会的機能を形成する上で大きな鍵となる学習手段です。その一つの例として「カメレオン効果」という現象に着目しました。これは無意識的な「模倣する – される」という働きかけが相互に行われることで相手との深い信頼関係を築くものであり、ビジネスシーンでもこの現象を意図的に発生させ信頼関係を構築する一つの手段として利用することがあります（ミラーリング）。

本作では「ホルン」と「ヒューマンビートボックス（以下「ビートボックス」と記載）」という

全く異なる音楽的背景を持つ 2 種類の楽器が、互いを模倣し合うことで少しずつ共通項を見出し信頼関係を構築していきます。金管楽器とビートボックスは（発音原理上の）共通項が沢山あると私は考えており、本作を通して両者に対する何かしらの親近感を抱いていただけたらと思いながら作曲しました。

また数年前から構想していた現代音楽とビートボックス融合作品の第 1 作目として作曲者本人がビートボックスを行います。人前でビートボックスを披露するのは今回が初めてとなります。非常に緊張しておりますが温かい目で見守っていただけましたら幸いです。

【おすすめコンテンツ】

» Gene Shinozaki：Never Give up
» chee：Piece of Rich Junk
前者はビートボックスとギター、後者は DTM との融合を図った作品。ビートボックスの可能性に希望を感じるような 2 作品です。

» Witold Lutosławski：Cello Concerto
チェロとオーケストラが繰り広げる決闘が見もの（聴きもの）。

【おすすめコンテンツ by 飯田 匡】

» 多久 潤一朗：コスモ・エフェクト
フルート奏者によるフルート独奏と吹奏楽のための作品。後半の超絶技巧ソロはもはやビートボックスの様相を見せる。

» Shuying Li：Coping Cadences
吹奏楽で、今私が最も注目している作曲家の最新作。独奏フレックス 6 楽器と吹奏楽のための作品で、各楽章において「古典派」や「ブルース＆ジャズ」など全く異なる音楽様式が模倣され、最終的には混合される。

想像以上の色とリズム
～不特定多数の金管楽器奏者のための

作曲：湯地 晃太郎

楽譜販売ページはこちら

全く新しい金管アンサンブルの世界を知りたい！　と資料を漁っていた時に目に留まったのが中央アフリカ共和国の部族、リンダが演奏する伝統的な管楽アンサンブル。その豊かなポリリズムによる音楽に衝撃を受けました。

また塚田健一著「アフリカ音楽の正体」、Simha Arom 著「African Polyphony and Polyrhythm: Musical Structure and Methodology」という 2 つの書籍に出会いました。いずれも著者が現地住民から直接習得した経験に基づくアフリカ音楽分析本であり、これらから得た西洋音楽とは全く

異なる作曲法の実践として本作を構想いたしました。

本作ではアフリカ音楽の特色でもある奏者の即興性や自発性を促す試みとして、譜面は相対的な音高や基本リズムのみの最小限の情報にとどめ、それを基にした各奏者のアレンジと、奏者同士の関係性から生まれるルールの上で音楽を展開していきます。それに加えて、終盤では簡単なゲーム（別紙参照）によって音楽が進行する場面があります。従来の打楽器アンサンブルよりも多彩な音響、従来の金管アンサンブルよりも多彩なリズム、奏者の自発性から生まれる活き活きとした音楽……それらによって「想像以上」に豊かな新しい金管アンサンブルの音楽が生まれたらどんなに楽しいことでしょう！

また、楽曲の途中では聴衆の皆様に「手拍子」をお願いする箇所がございます。当該箇所で奏者が指示いたしますので、ぜひ（ノリノリで！）ご協力くださいませ。

【おすすめコンテンツ】

» ONGO TROGODE：BANDA LINDA HORNS, CENTRAL AFRICA

ディジュリドゥのような見た目の管楽器を複数名で吹いているだけなのに、どうしてこのような複雑かつ豊かな音楽が生まれるのか！！！　ぜひご一聴を（各種サブスクで聴けます）。

» John Zorn：Cobra

サバイバルゲーム的な要素を含んだ集団即興作品。ルールに基づいた指示を指揮者・演奏者が相互に出し合いながら音楽が形成されていきます。

【おすすめコンテンツ by 飯田 匡】

» 三輪 眞弘：またりさま

コンピュータによって検証された法則を現実空間で模倣するという三輪眞弘の「逆シュミレーション音楽」の代表作。その模倣は「ありえたかもしれない音楽」とされ、架空の民族の物語が下敷きにされているのも興味深い。

» 柘植 元一／塚田 健一：はじめての世界音楽

人や社会と音楽の関わりからあらゆる音楽文化を見渡そう、という音楽民族学の魅力的な世界への入門書。

音響的オートマトン / オートマトン的共同体

作曲：中村 陽太

楽譜販売ページはこちら

ハンナ・アーレントは『人間の条件』で、人は他者の前に「現れる」ことで〈誰であるか〉を示し、政治的存在となると述べた。公共空間は語りと行為の関係性から成立する。ジュディス・バトラーは『アセンブリ』でこの公共空間論を引き継ぎつつ、身体的依存と脆弱性を公共性の条件として再定義した。言語を持たない身体や語れない状態も政治性を帯びうるとし、集まる身体や行進する身体の力を評価する。これはフェミニズム理論が見落としてきた依存性を政治的資源として再考する試みである。

だが現代では、出現は制度に包摂され視覚的ノイズとして無効化されがちだ。依存や脆弱性を政治的契機とするバトラーの提案も、脱政治化や倦怠の中で届かないことが多い。重要なのは「誰が出現するか」ではなく、「誰が出現可能か」という構造的条件である。政治的可視性はこの出現可能性の勾配によって規定される。

ここでニクラス・ルーマンの社会システム理論が有効である。社会は自己準拠的な意味生成システムの集合で、相互接続は共通理解ではなく観察のズレや干渉を通じて成立する。出現は合意ではなく異なるコード間の干渉として理解される。主体は人間に限らず、AI や LLM など言語生成体も含まれる。ポストヒューマニズム的視座では主体性より「干渉しうる構成要素」であるかが問われる。人間もまた制度や記憶に媒介された反応的なオートマトン的存在とみなしうる。このとき「連帯」や「共感」は意思ではなく応答性や翻訳可能性の強度として構成される。多様な存在が距離に応じて連帯を形成する多次元的空間が想定される。

本作《音響的オートマトン / オートマトン的共同体》は、この構造的干渉の空間を音響・映像上に設計する試みである。奏者にはリアルタイムで決まる音高と解釈の指針テクストが与えられ、統一的意図ではなく異なる指示体系によるズレや干渉が意味を揺らがせる。奏者は自由意思ではなく構造内で応答するオートマトンとして現れるが、その距離の組み替えが政治的契機となる。

実装には Tauri を用い、Web 技術とローカル資源を統合した非プラットフォーム依存環境を構築した。音響は Faust ＋ WebAssembly でリアルタイム生成し、ビジュアルは p5.js と Three.js によって 2D ／ 3D 描画を行う。これらはオープンソースであり、設計・配布・改変を通じて出現の条件を市場論理から独立させる実践でもある。

【おすすめコンテンツ】

» **Ryoichi Kurokawa：各種ライブ、インスタレーション記録**

抜粋された記録が HP に少しずつ残っています。点群がかっこいい。

» Frank Bretschneider：abtasten_halten

IDM, 実験音楽。耳が気持ちいいのでぜひ聞いてください。

» PAS TASTA & chelmico：丁寧

スピード感と軽いグルーヴ。ラップパートがすごい。こういうスタンスで生きてみたい。

【おすすめコンテンツ by 飯田 匡】

» Beeple：HUMAN ONE

NFT アートの先駆者 Beeple による初の立体作品。無限に生成される背景の中を、メタバース空間で生まれた最初の人間が歩き続ける。

» Nina Fukuoka：Polka is a Czech Dance

AI 生成映像と音楽のコラボレーション。映像がめちゃくちゃ胡散臭いのが味になっている。

踊る巨人
～テューバとテープのための

作曲：姫野 七弦

楽譜販売ページはこちら

この作品について、もちろん編成やスタイルの選択の理由を説明することはできますが、しかしあまり語らない方が良いような気がしています。ぜひ巨人＝テューバと一緒にお楽しみください。

【おすすめコンテンツ】

» Genevieve Artadi：Forever Forever

主にリズムの作り方を参照しました。いくつかバージョンがありますが、アルバム「Another Leaf」に収録されているビッグバンド伴奏版の方が好きです。

» Vulfpeck：3 on E (feat. Antwaun Stanley)

今回の演奏者である長澤さんのおすすめ楽曲です。ベースラインのあり方を参照するべく Vulfpeck の楽曲はかなり聴き込みました。

» yuma yamaguchi：Concordia (Yuta Bandoh Remix)

とくにシンセベースの扱い方は多分に影響を受けている気がします。リミックス元も含めカッコ良すぎる！

【おすすめコンテンツ by 飯田 匡】

» 湯浅 譲二：ぶらぶらテューバ

テューバソロによる作品。奏者が歩き回るので《夜のファンファーレ》で紹介してもよかったかも。

» Øystein Baadsvik：Fnugg Blue

テューバの超絶技巧的な作品だが、音楽的には親しみやすくポップでさえある。

組曲「ネオン +」

作曲：山根 明季子

楽譜販売ページはこちら

都市空間の電飾をテーマにした《組曲「ネオン +」》は、全 3 曲の金管五重奏曲です。

「ビデオゲームアーケード」はゲームセンターを指します。ギラギラとエフェクトが発動する筐体が並ぶ空間を、この金管編成で捉えようとしました。異なるディスプレイの世界が複数重なっている様子が聞こえるでしょうか。

「ネオン」は組曲構想前に単品で、兵庫のみつなかホールにて初演されました。作曲する時にリクエストもあり、私は、ホール近隣のネオン看板がレトロに陰る空間感覚から着想を得て書き進めました。ビビッドな和音をあちこちに配置したり、光の質感を変化させたりする楽曲です。

夜の遊園地に佇む架空の乗り物「カーニバルライド」。出発のファンファーレで回り始め、停止すると人を入れ替えて再び巡ります。旋律は楽器間で受け渡され、乗る人の視点を次々と少しずつ移していきます。

【おすすめコンテンツ】

» **Garoad：VA-11 Hall-A Second Round**

ゲーム「VA-11 Hall-A（ヴァルハラ）」のサウンドトラック。ゲームはドット絵調、ベネズエラのスケバンゲームズが開発したサイバーパンクアドベンチャーで、近未来とレトロを掛け合わせたネオンカラーな音が展開します。

» **Lu Yang：The Great Adventure of Material World**

上海生まれの美術家ルー・ヤン（陸揚）の映像作品。仏教哲学をベースとした仮想ゲームを舞台に現代の物質主義を考察する内容で、音楽はチップチューンアーティストの 2080 が担当。特に「EPISODE6 スーパーモビルスーツ」のあたり、目眩くネオン世界です。

【おすすめコンテンツ by 飯田 匡】

» **山根 明季子：水玉コレクション No.06**

作曲者の代表的シリーズの中の一作品。反復の中の差異が魅力。

» **Georg Friedrich Haas：Hyperion**

オーケストラと光のための作品。絢爛な光の様が伝わってくるようです。

» **Tracey Emin：It’s What I’d Like to Be**

ネオン管を用いた美術作品。可愛らしいです。

プロフィール

作曲 ／ Composer

姫野 七弦 ／ HIMENO Natsuru

2000 年生まれ。管打楽器を用いた作品を中心に、さまざまな媒体のための創作活動やそのアシスタントを行なっている。
吹奏楽やアンサンブルのための作品がネクサス音楽出版より出版されている。
2024 年に 21 世紀の吹奏楽 第 26 回“響宴”に選出。
これまでに作曲を大橋征人、井元透馬、鈴木純明、渡辺俊哉、川島素晴、菊地幸夫の各氏に師事。
横浜市立戸塚高等学校普通科音楽コース（マリンバ専攻）、東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業後、現在国立音楽大学大学院修士課程作曲専攻作品創作コース在学中。
作曲の会「Shining」会員。「Symnapse」代表。
https://sites.google.com/view/himeno-site

湯地 晃太郎 ／ YUJI Kotaro

1997 年生まれ。宮崎県出身。
作曲は現在まで独学。主に管楽器を中心としたアコースティックな楽器編成のための作品を発表し、吹奏楽やアンサンブルのための作品がネクサス音楽出版より出版されている。
フランスや東欧、日本の現代音楽を下敷きに、新しい調性音楽の和声語法を模索している。また近年は日本を含む世界各地の伝統音楽や儀礼、遊びから自然発生的に生まれる複雑性に着目した、新奇性とポピュラリティを両立した作品の制作に取り組んでいる。2022 年に第 32 回 TIAA 全日本作曲コンクール室内楽部門 3 位入賞。

中村 陽太 ／ NAKAMURA Yota

2002 年生まれ。現代音楽を中心とした、幅広い創作活動を行う。
これまでに作曲を大橋征人、藤川大晃、金子仁美の各氏に師事。
横浜市立戸塚高等学校普通科一般コースを卒業後、東京藝術大学 4 年次に在籍中。
作曲の会「Shining」会員。公益財団法人クマ財団第 9 期奨学生。

山根 明季子 ／ YAMANE Akiko［ゲスト作曲家］

作曲家、ディレクター、アーティストとして横断的に活動。日本を拠点に過剰な消費、欲望と人間、少女性、大衆文化や近代芸術観といった大きな仕組みに対する肌感覚を、枠組みにとらわれない形で多く扱ってきた。五線記譜の管弦楽曲からテキストスコア作品に至るまで作曲作品は国内外で制作上演されている他、公演やイベントの監修、展示、実験音楽パフォーマンスなどを通して、音を介した探究や対話の場を作ることを続けている。

トランペット ／ Trumpet

今田 俊輔 ／ IMADA Shunsuke

2001 年生まれ。
トランペットを 9 歳に始める。
八王子学園八王子高等学校、東京藝術大学を卒業。国立音楽大学 NEWTIDE Jazz Orchestra に 2023~24 年度所属。
現在、千葉県の大型テーマパークにてレギュラーショーに出演。
これまでに、トランペットを長谷川智之、栃本浩規、佐藤友紀、菊本和昭の各氏に、室内楽を日髙剛、栃本浩規、辻本憲一の各氏に師事。
藝大生による小編成吹奏楽団『miniTua-wind ensemble』代表。

妹尾 美雨 ／ SENOO Miu

北海道旭川市出身。7 歳よりトランペットを始める。第 40 回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール金管楽器部門高校生の部第 2 位。同大会第 41 回金管部門高校生の部第 1 位。第 26 回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト北海道大会高校生の部金賞。東京藝術大学 4 年在学中。松田次史、栃本浩規、佐藤友紀、菊本和昭、井川明彦の各氏に師事。

ホルン ／ Horn

嵩元 希隆 ／ TAKEMOTO Kiryu

沖縄県出身。12 歳よりホルンを始め、東京音楽大学を卒業後、準特別奨学生として東京音楽大学大学院に入学し、修士を修了。現在、日本国内においてフリーランスとして活動中。ホルンを阿部雅人、水野信行、勝俣泰の各氏に師事。

二階堂 充教 ／ NIKAIDO Minori

三重県伊賀市出身。
これまでにホルンを石山直城、五十畑勉、勝俣泰、木川博史、日髙剛、トロンボーンを香川慎二、古賀慎治、ピアノ・ソルフェージュを渋木美華の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学をアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞し卒業。

2015 年第 1 回管楽器ソロコンテスト in 東海 2015 奨励賞
2017 年第 24 回トロンボーンコンペティション < 高校生以下の部 / 独奏部門 > 第 1 位
2022 年度東京藝術大学モーニングコンサートにてソリストとして藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。

トロンボーン ／ Trombone

岡田 光司 ／ OKADA Koji

神奈川県鎌倉市出身。横浜市立戸塚高等学校普通科一般コースを経て、東京音楽大学卒業。
第 14 回日本トロンボーン学生音楽コンクール奨励賞。
第 32 回日本クラシック音楽コンクールトロンボーン部門大学の部第 3 位。
これまでにトロンボーンを新田幹男、野々下興一の両氏に師事。
現在フリーランスとして活動中。

テューバ ／ Tuba

長澤 照平 ／ NAGASAWA Shohei

秋田県秋田市出身。
2024 年東京藝術大学大学院音楽研究科修了。
チューバを柳生和大、池田幸広、佐藤和彦の各氏に、室内楽を栃本浩規、辻本憲一、古賀慎治の各氏に師事。
2017 年第 21 回秋田県青少年音楽コンクール管打楽器部門にてグランプリ受賞。
2022 年第 17 回チェジュ国際金管打楽器コンクールチューバ部門にて第 1 位受賞。
2022 年第 11 回秋吉台音楽コンクールテューバ部門にて第 1 位及び山口県知事賞受賞。
学内にて安宅賞、宮田亮平奨学金を受賞。
NHK-FM「リサイタル・パッシオ」に出演。
現在、フリーランスとして活動中。

音響 ／ Sound Engineer

佐藤 匡介 ／ SATO Kyosuke

東京藝術大学音楽環境創造科を経て、同大学院音楽文化学専攻音楽音響創造研究分野修士課程に在学中。専門はピアノの音響特性。音楽録音エンジニアとして主にクラシック音楽作品の録音制作を手掛ける。2023 年、日本オーディオ協会主催「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」で、自身の企画した演奏会のライブ録音が優秀企画制作賞を受賞。Audio Engineering Society (AES)、The Galpin Society、日本音響学会各会員。AES 日本学生支部長。

スタッフ ／ Staff

飯田 匡 ／ IIDA Tasuku

稲垣 千佳 ／ INAGAKI Chika

菊池 亮佑 ／ KIKUCHI Ryosuke

白築 葵 ／ SHIRATSUKI Aoi

服部 亜里沙 ／ HATTORI Arisa

ロゴデザイン ／ Design (logo)

真田 将太朗 ／ SANADA Shotaro

フライヤー・プログラム表紙デザイン ／ Design (flyer, brochure cover)

中村 陽道 ／ NAKAMURA Harumichi

新メンバー紹介

飯田 匡 ／ IIDA Tasuku

新しく Symnapse メンバーとして加入いたしました、飯田匡と申します。音楽学を専門とするメンバーとして、新しい観点から活動がより良いものになるよう尽力いたします。よろしくお願いいたします！

プロフィール：
2005 年生まれ、埼玉県出身。
小学生 4 年時よりユーフォニアムを始める。中村洋一郎氏に音楽観の影響を受け、アルプスの少年名義でインターネット上で吹奏楽や現代音楽の紹介を行う。また、2024 年 10 月より現代音楽の演奏会評を執筆する X アカウント qoo. を鈴木美雅氏と共に創始。
現在、東京藝術大学音楽学部楽理科在学中。

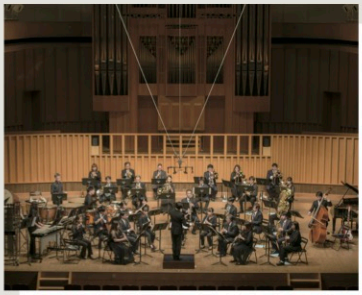


演奏会での演奏はたった一度きり——

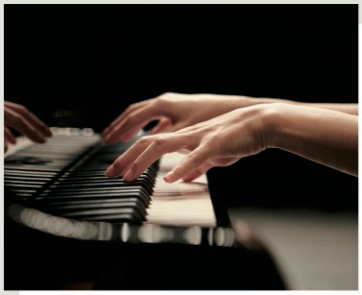
その思い出を、録音で残しませんか？

ケーエムワークスでは、
ホール常設のマイクではなく音にこだわって選び抜いたマイクを持ち込み録音します。
スタジオやホール、リハーサル室、どんな場所でもレコーディングが可能です。

演奏会収録



コンクール オーディションの録音



レコーディングスタジオの録音



ケーエムワークス | 検索 https://www.km-works.net

レコーディング＆ミキシング、マスタリング、楽譜制作まで対応可能な音楽プロダクション

K.M.works

050-1808-3923
info@km-works.net（担当：三國）

詳細
お問い合わせ

次回予告

Symnapse × miniTua-wind ensemble

～シン・フレックス～

2026 年 6 月 6 日（土）14 時開演
都内ホールにて開催決定！

曲目：山根 明季子／キャンディロボ、Symnapse メンバーによる新作等

次回演奏会は、同世代の吹奏楽団 miniTua-wind ensemble との合同企画！
近年注目が高まっている**「フレックス」**（楽器選択が可変の編成）ならではの音楽を提示します。
両団体の SNS をフォローし、続報をお待ちください！

Symnapse		miniTua-wind ensemble
symnapse.jp	ホームページ	minitua-wind.com
@symnapse	Twitter（現 X）	@miniTua_wind
@symnapse_info	Instagram	@minitua_wind
@symnapse	YouTube	@miniTua_wind

Symnapse

特別協力・録音：K.M.Works
録画：株式会社CAFUAレコード
主催：Symnapse

キンカン・
コンプレックス



ARTS
COUNCIL
TOKYO

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京［スタートアップ助成］